子教員９人，女子教員23人，合計32人となっており，それぞれの比率については図２－３－17のとおりである。

これから，国立中学校，公立中学校では男子教員が，私立中学校では女子教員が多数を占めている。

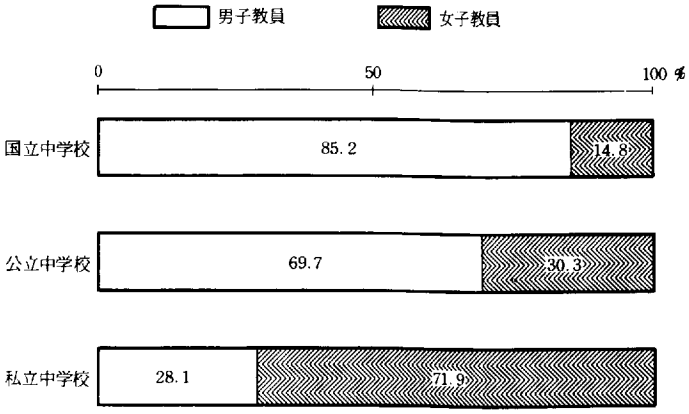
この公立中学校教員の男女比の推移を昭和41年度から昭和51年度までにおいてみると，男子教員は緩慢な下降状況にあり，昭和51年度は昭和41年度に比べ約 2.2%減少している。

一方，女子教員は年々緩慢な上昇傾向を示し，男子教員の比率と女子教員の比率の差は，年々縮小の方向にあるといえる（図２－３－18)。

次に，公立中学校教員の年齢構成をみると，昭和51年度の平均年齢は41.0歳となっている（「義務教育課調査」(昭51))。

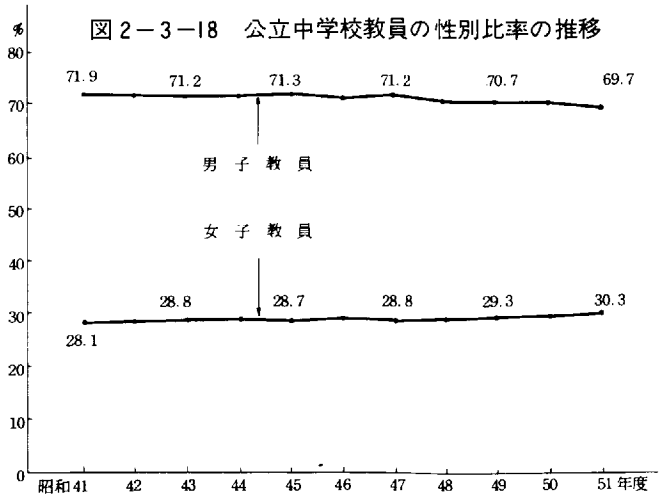
この年齢構成を男女別に年齢別構成でみたのが図２－３－19である。

図２－３－17　国・公・私立中学校男女教員の割合



注：１．「学校統計要覧」(昭51)による。
　　２．割合＝(性別教員数)÷(教員数)×100

図２－３－18　公立中学校教員の性別比率の推移



注：１．「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。
　　２．比率＝(性別教員数)÷(教員数)×100

これから，男子教員は40歳～44歳を頂点としてほぼピラミッド型を示している。なお，男子教員に占める40歳代教員の割合は50.3%となっており，中学校男子教員の２人に対し１人は40歳代といえる。

女子教員については，30歳～34歳が最も多く，次いで40歳～44歳となっており，女子教員に占める30歳代の教員の割合は約40.2%を占めることになる。

また，公立中学校教員の年齢構成を全体でみると，最も多いのは40歳～44歳，次いで45歳～49歳となっており，公立中学校教員に占める40歳～49歳の教員が44.9%となる。

なお，男女別にみた29歳以下の教員では男子教員に対し女子教員が 1.2ポイント，50歳以上では男子教員が女子教員を10.7ポイントそれぞれ上回っている。

次に，昭和51年度の公立中学校教員の平均年齢を地域別にみると，特A，A，B各地域の平均